

2023年度のボランティア支援実績

◆学生のボランティア登録数・派遣数・ボランティア依頼数実績

2024年3月11日現在

年 度	新規登録学生数	派遣学生数	ボランティア依頼数
2015年度計	164名	349名	181件
2016年度計	259名	235名	140件
2017年度計	327名	443名	287件
2018年度計	363名	490名	271件
2019年度計	460名	572名	238件
2020年度計	223名	154名	98件
2021年度計	397名	323名	141件
2022年度計	577名	916名	185件
2023年度計	460名	784名	189件
累 計	3,230名	4,266名	1,730件

※ボランティア支援室が開設した2015年1月15日～3月分は2015年度計に計上
 ※2015年度～2022年度卒業生1716名含む

◆2023年度 学生のボランティア参加実績(抜粋)

カテゴリー	活動名	依頼	形態	活動日	参加学生数
まちづくり・イベント支援	よこすかカレーフェスティバル2023	横須賀市立市民活動サポートセンター	単発	5月20日・21日	8名
まちづくり・イベント支援	祭礼育宮におけるパフォーマンス	地縁団体(法人)西大通町内会	単発	7月15日	4名
まちづくり・イベント支援	第72回浜大祭 臨時スタッフ募集!	大祭実行委員会(第73代)	単発	11月4日～11月5日	34名
まちづくり・イベント支援	金沢八景権現山公園 はじめての茶会	公益財団法人 横浜市緑の協会(管理課 金沢八景権現山公園)	単発	12月2日	6名
まちづくり・イベント支援	杉田梅まつりの運営スタッフ・ボランティア	梅のまち杉田"実行委員会(合同会社 横浜旬・菜・果)	単発	2024年2月17日～18日	9名
学習支援	ひとり親世帯の高校生対象 高等教育進学に向けた英語教室	横浜市社会福祉協議会	通年	5月～2024年3月	2名
学習支援	2023年度中間テスト前・期末テスト前学習会 教育ボランティア	横浜市立釜利谷中学校	単発	6月～2024年2月	9名
学習支援	南部児童相談所・一時保護所学習支援ボランティア	学生ボランティア団体「ほのぼの」	通年		40名
学習支援	寄り添い型生活・学習支援ボランティア	公益財団法人よこはまユース(かもん未来塾)	通年		6名
学習支援	「外国にルーツがある子ども」たちの学習支援	わたぼうし教室 横浜	通年		4名
学習支援以外の子ども・青少年支援	第11回親子で楽しむ科学実験(エクステンション講座)	横浜市立大学(地域貢献センター)	単発	6月～8月	2名
学習支援以外の子ども・青少年支援	小田急沿線おしごと体験イベントのボランティア	一般社団法人夢らくぞプロジェクト	単発	8月1日～30日	26名
学習支援以外の子ども・青少年支援	子どもアドベンチャーカレッジ2023「めざせ!お著マイスター」	NPO法人みんなのお著プロジェクト	単発	8月16日・17日	3名
学習支援以外の子ども・青少年支援	4年 高尾宿泊体験学習(美しが丘小学校)	横浜市立美しが丘小学校	単発	10月15日～16日	2名
学習支援以外の子ども・青少年支援	よこはま教育実践ボランティア	横浜市教育委員会	通年		3名
障害者支援	第48回パーキンソン病友の会神奈川県支部定時総会・医療講演会	全国パーキンソン病友の会神奈川県支部	単発	6月11日	12名
障害者支援	自分発見プロジェクト Study in 屋台の森	自分発見プロジェクト Study in 屋台の森	通年	6月～2024年3月	1名
高齢者支援と健康に関する活動	フードドライブ品の仕分け等ボランティア	公益社団法人フードバンクかながわ	通年	6月28日・11月20日・27日	延べ3名
高齢者支援と健康に関する活動	「食の支援」ボランティア	横浜市立大学ボランティア支援室	通年	7月31日・11月7日・2024年1月29日・30日	延べ29名
自然・環境保全活動	野島海岸の海浜清掃活動「オールクリーン野島ビーチ」	よこはまユース 横浜市野島青少年研修センター	単発	9月30日・10月28日	5名
文化・芸術・スポーツに関する活動	横浜八景島トライアスロンフェスティバルボランティア	横浜シーサイドトライアスロン大会実行委員会事務局	単発	9月23日・24日	12名
文化・芸術・スポーツに関する活動	横浜フランス映画祭2024	フランス映画祭2024 横浜	単発	2024年3月18日～3月24日	43名
国際交流・多文化共生に関する活動	あーすフェスタかながわ2023企画委員	あーすフェスタかながわ実行委員会事務局(神奈川県国際課企画G)	通年	4月～12月	10名
国際交流・多文化共生に関する活動	留学生対象日本語授業のボランティア(前期・後期)	横浜市立大学	単発	4月～2024年1月の授業期間中	67名
国際交流・多文化共生に関する活動	SOMPO JAPAN CUP(ホッケー国際大会)ボランティア	日本ホッケー協会	単発	8月28日～9月4日	2名
国際交流・多文化共生に関する活動	IFAD Youth Club 初期メンバー	国際農業開発基金(IFAD)日本連絡事務所	通年	2024年3月～	24名



横浜市立大学 ボランティア支援室

報告書 2023



Y-SHIP 2023 サイドイベント
「ウクライナ・横浜ユース写真展+トークイベント」



2023世界トライアスロン・パラトライアスロン
横浜大会



寺子屋塾 西大道



第12回アジア・スマートシティ会議



横浜マラソン2023

横浜市立大学 ボランティア支援室

〒236-0027 横浜市金沢区瀬戸 22-2
 YCU スクエア 1階カウンター&2階 S27「Volounge」
 Tel : 045-787-2444 Fax:045-787-2093
 Mail : volunteer@yokohama-cu.ac.jp



ボランティア支援室 HP



ボランティア支援室 FB



ボランティア支援室 X
(旧 Twitter)



ボランティア支援室 Instagram

横浜市立大学ボランティア支援室 2024年3月発行

ボランティアをはじめ、留学、部活動、旅行、アルバイトなど学生の課外活動の選択肢が広がった 2023年度

2023年5月の新型コロナウイルス感染症の5類への移行に伴い、約3年間にわたるボランティア活動の自粛傾向も、やっと本格的に解除されたと言えるでしょう。様々なイベントが「〇年ぶり」と謳ってマスク着用などの条件もなく再開され、学生からは「初めての活動だった」という感想も多く、新鮮な気持ちで参加できたようです。

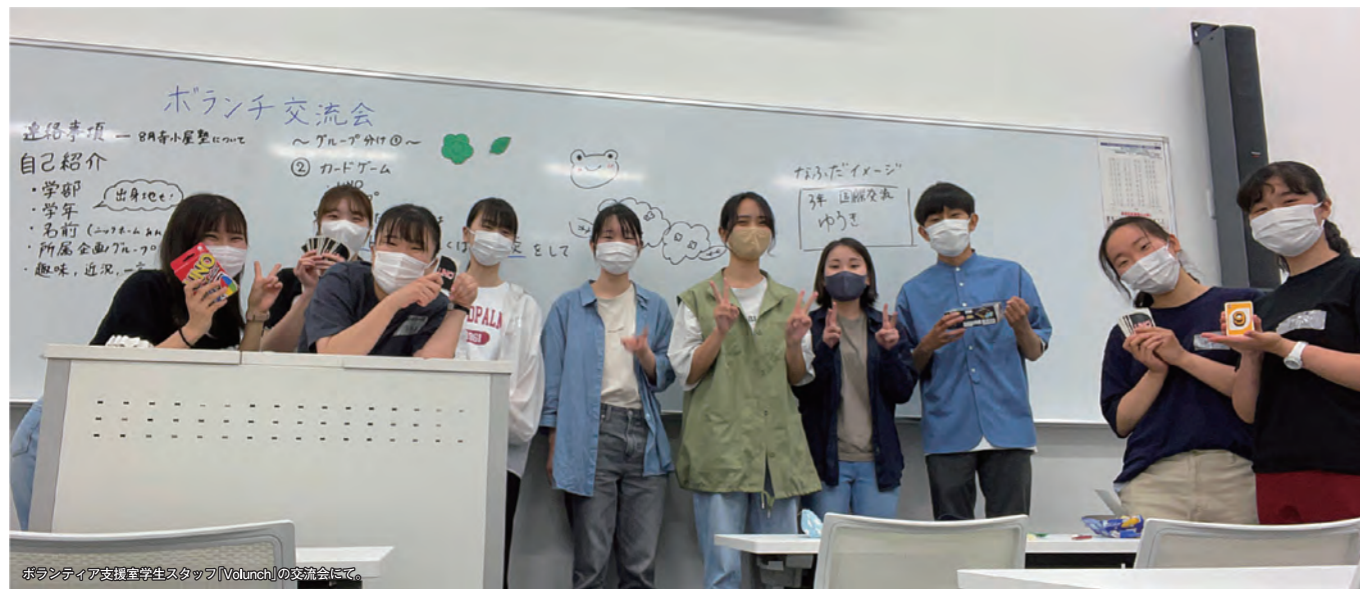
しかし数字（P12参照、2024年3月11日現在）で見ると、依頼数は189件と昨年度の185件より増えたものの、ボランティアの登録者数は460名、派遣数も784名とな

り2022年度の登録者数579名、派遣数924名より減少しました。

これについては、社会全体として新型コロナウイルス感染症の影響がほぼなくなったため、しばらく様子を見ていた留学や部活動（遠征や合宿を含む）、旅行、アルバイトなど学生の課外活動全般の選択肢が格段に広がり、そういった活動に参加する学生が急激に増えたためかもしれないと考えられます。

一方相談件数を見るとメール、問合せフォーム、対面、電話合わせて420件あり、2022年度の390件から増加しています。

中には「道志村の資源を活用した村おこしの支援をしたい」「パレスチナ問題を考える活動がしたい」「楽しみながら海浜清掃活動をするイベントを企画している」等の相談もあり、実際ボランティア支援室で交付している「YCUボランティア・スタートアップ補助金」の申請も4件ありました（P10参照）。これらの結果から、「何か活動をしたい」という意欲やモチベーションが戻り、ボランティア活動・地域貢献活動に関心が向いている学生は、確実に増えていることがわかります。



■『循環型「食」の協働プロジェクト(食のサイクル活動)』で取組む2つの活動

ボランティア支援室では2022年度に引き続き、個人のボランティア活動のサポートとともに、SDGsの目標と関連付けた4つの協働プロジェクトを企画・運営しました。

2021年度から継続している『循環型「食」の協働プロジェクト(食のサイクル活動)』のひとつ、生活が厳しい学生向けの「食の支援」では、開始(2020年度)以来課題だった金沢八景キャンパス以外のキャンパスに通う学生への支援について、JASSOから「物価高に対する経済対策支援事業(※)」の支援金をいただき、実施することができました(詳細はP4)。学生からは「福浦キャンパスでも実施してください、実習の合間を縫って初めて受け取りにいくことができました」「舞岡キャンパスは学食がなく近くに飲食店もないので、すぐに食べることでできるレトルト食品を支援して頂き非常に助かりました」等の感想が寄せられています。

そして『循環型「食」の協働プロジェクト(食のサイクル活動)』ではもう一つ、食品ロスの解決を目的とした取組があります。公

益社団法人フードバンクかながわや社会福祉法人横浜市社会福祉協議会等を通じて、賞味期限が近く廃棄予定だった食品・生活用品や雪のため配送できなかった冷凍品等を引き受け学内で配布する活動で、2023年度は合計17回実施しました(3月12日現在)。中には数千個、数百箱といった大量のこともあり配架作業も大変ですが、学生をはじめ教職員も巻き込んで食品ロスの不条理を感じながらも感謝し、受け取ることで全学を挙げ食品ロス削減に貢献しています。

★JASSO 物価高に対する経済対策支援事業



■学生の活動に求められるのは、学生目線のアイデア、柔軟で素早い軌道修正

「YCU ウクライナプロジェクト」では、Y-SHIPの関連イベントとして11月11日(土)に開催されたユース向けイベントの企画・運営に、メンバーが参画しました(詳細はP3)。この活動では準備段階から当日までの交流を通して、横浜の若者(主に本学の学生)とウクライナ避難民の若者が理解し合うことが

目的でしたが、お互いに個人的なやり取りをする仲になった学生もあり、ウクライナの状況がまだまだ解決には至らないことを考えると、こういった関係性をさらに発展させて、2024年度の活動につなげていくことを検討する必要があると感じます。

その他「YCU×SEED プリスター回収プロジェクト(詳細はP6)」、「病院ボランティアプロジェクト(詳細はP7)」も、それぞれ大きな地域課題の解決に向けて活動を継続中ですが、特に「病院ボランティアプロジェクト」は社会状況に左右されることも多く、なかなか思い通りに進まない場面があります。そんな時でも大切なのは学生目線のアイデア、柔軟で素早い軌道修正、そしてあきらめない気持ちではないでしょうか。地域団体からの依頼にも「学生ならではのアイデアや行動力」を求められるものが多くあります。

ボランティア支援室は、これからも引き続きこういった学生ならではの活動に寄り添い、誰も取りこぼすことなくサポートを続けて、社会課題の解決と地域への貢献を学生と一緒に考えていきたいと思います。

(コーディネーター 柳本 薫)

YCU
ウクライナ支援
プロジェクト



ウクライナから横浜市に避難している方々の支援を目的とした「YCUウクライナ支援プロジェクト」では、2023年度前期、横浜市国際交流協会(以下「YOKE」という)主催によりウクライナ交流カフェ「ドゥルーズィ」で行われている、避難民の方々に向けたイベントやワークショップなどに参加して、交流・支援活動を行いました。

後期は11月14日(火)、15日(水)に開催された「Y-SHIP*」に関連したユース向けのイベントの企画・運営プログラムにメンバー8名が参画。11月11日(土)のイベント開催に向けて、ウクライナ避難民のユースとともに、企画・運営チームとして活動しました。

Y-SHIP 2023 サイドイベント
「ウクライナ・横浜ユース 写真展
+トークイベント」

Y-SHIP2023のサイドイベントは、ウクライナ避難民のユースと「YCU ウクライナ支援プロジェクト」メンバーを中心とした横浜在住のユースが、話し合い交流する過程でお互いの理解を深めることを目的としたもの。横浜市国際局、YOKE、横浜YMCA、本学の4者のサポートにより、9月のキックオフ、10月のグループに分かれてのまち歩き&フォトセッション、オンラインミーティング等を経て、11月11日(土)に一般からもユース世代の参加を募り、写真を通して「ウクライナと横浜の良いところ」を同世代にシェアする公開イベントを実施しました。



9月9日キックオフの企画会議。Zoom画面を見ながらオンライン参加メンバーと意見交換。

当日は日本人の方、外国籍の方、ウクライナ出身の方など年齢も国籍も様々な参加者の方がそれぞれ出身地について紹介し合った後、ウクライナ避難民ユースのリリアさん、カテリーナさんが、自身のバックグラウンドや、ウクライナではどのような生活をしてきたのか、日本に来て大変だったこと、将来に向けて等、ウクライナ語による発表をしました(投影資料は日本語)。後半はウクライナの方が参加者のために作ってくださったピロシキを食べながら「ウクライナと横浜」に関してユースの視点で気づいたことなど

を皆で話しながら、ユース同士の交流につなげました。

- YCU ウクライナ支援プロジェクト参加メンバー/20名
- 実施日/9月9日(土):キックオフ対面3名参加・オンライン3名参加、10月8日(日):フォトセッション7名参加、11月11日(土):Y-SHIP サイドイベント4名参加
- 場所/キックオフ:横浜YMCA、フォトセッション:横浜YMCA、金沢区、都筑区、中区など、Y-SHIP サイドイベント:Y-PORTセンター公民連携オフィス GALERIO

(※)「Y-SHIP」は、国内外から人材や企業などの活力を呼び込み、横浜が世界と繋がるイノベーションを目指す国際コンベンション。



ウクライナ交流カフェ
「ドゥルーズィ」での支援活動

2022年度から続くウクライナ交流カフェ「ドゥルーズィ」で行われている、避難民の方々に向けたイベントやワークショップなどに、YCU ウクライナ支援プロジェクトメンバー



6月27日日本舞踊イベントに参加。

が3~4名ずつ参加し、交流・支援活動を行いました。

8月の終わりにはウクライナの子どもたちに向けた「夏休み宿題教室」を実施しました。ウクライナの方との交流では言葉の壁が大きいのですが、中には日本語がすっかり上手になっている子もおり、足りない部分はスマホの翻訳アプリを使うなど、学生も子どもたちもお互い積極的に話しかけ合う様子が見られ、とても楽しい交流となりました。

- 実施日/5月27日(土):日本舞踊イベント3名参加、6月24日(土):いのちの木WS3名参加、8月12日(土):チャリティ公演3名参加、8月26日(土):夏休み宿題教室5名参加
- 場所/ウクライナ交流カフェ「ドゥルーズィ」



8月26日夏休み宿題教室の様子。

循環型「食」の協働プロジェクト (食のサイクル活動)



生活が厳しい学生向けの「食の支援」も3年目。2023年度の事前登録学生は649名に

金沢八景キャンパスでの「通常開催」は2023年8月1日(火)、11月8日(水)、2024年1月31日(水)の全3回実施し、延べ572名に支援品を配布しました。自宅外通学やひとり親世帯など保護者等からの支援を十分に受けられない状態であること、物価高のため生活費を切り詰めている状態であることなどの条件を満たしている事前登録した学生を対象に案内を出して、8月1日、11月8日開催回は、先着順の「セルフ方式」で実施しました。



2023年度で3年目となった生活が厳しい学生に向けた継続的な「食の支援」活動は、当初は新型コロナウイルス感染症拡大に伴うアルバイトの機会減少によって収入の減った学生を主な対象としていましたが、2023年度も、物価高の影響により生活が厳しい学生にも対象を広げ、延べ572名の学生に配布することができました。また、大きな課題であった他キャンパスの学生に向けても、JASSO(独立行政法人日本学生支援機構)から支援金をいただき、「特別開催」として福浦キャンパス、鶴見キャンパス、舞岡キャンパスの学生延べ93名を支援することができました。

2023年度も引き続き公益社団法人フードバンクかながわ(以下「フードバンクかながわ」という)、NPO 法人セカンドリーグ神奈川、社会福祉法人横浜市社会福祉協議会、株式会社オーバーシーズなどの団体・企業、また本学で実施した新型コロナウイルス対策基金(※)にご協力くださった地域の方々並びにOB・OGの皆さまには多くのご支援をいただきましたことを、この場を通じて感謝申し上げます。

※「新型コロナウイルス対策基金」/ 新型コロナウイルス感染症患者の治療にあたる本学附属2病院や学生への経済的支援のため設置した基金。皆様からのご寄附は総額約8,673万円に達しました。この場を借りて、改めて感謝申し上げます(令和5年4月15日で募集は終了しました)。



8月1日フードバンクかながわ・食糧提供支援ボランティアの様子。

8月1日令和5年度第1回「食の支援」の様子。

「食の支援」や「ロス品配布」に向けてフードバンクかながわをはじめ、団体・企業から集まった大量の支援品を段ボールから出して並べたり、掲示物を作ったり、職員だけでは対応しきれない作業は「ちょこボラ」など、ボランティアの学生に手伝ってもらっています。

- 「フードバンクかながわ・食糧提供支援ボランティア」
- 8月1日(火)/一般学生2名・Volunch3名(大塚、藤森、岡川)
- 9月14日(木)/一般学生5名・Volunch2名(横井、伊藤)
- 場所/フードバンクかながわ事業所



★「フードバンクかながわ・食糧提供支援ボランティア」レポートはこちらから。

※ボラツアーとは
ボランティアに初めて参加する学生の不安を減らすためにVolunchと一緒にボランティア活動に参加する企画です。事前交流会と事後交流会を実施し、事前準備・振り返りといった一連のサポートを行うことでボランティア経験が少ない学生も安心してボランティア活動に取り組むことができるプログラムです。

これまでのアンケート結果から「当日の授業の時間割が会場に到着できる時間に影響するため、当日の先着順では不公平感がある」という意見もあり、1月31日の第3回では、事前に予約フォームから申し込んだ120名の学生に「予約セット」を準備して配布し、予約できなかった学生には先着順にロス品を配布しました。

またJASSO(独立行政法人日本学生支援機構)からの支援金による「食の支援 特別開催」を福浦キャンパス(7月10日(月))、舞岡キャンパス(7月10日(月)~14日(金))、鶴見キャンパス(7月26日(水))の学生に向けて予約制で実施し、93名の学生に支援セット(パックごはん、レトルトおかず、みそ汁の

具セット、バスタソース、缶詰、お菓子、洗濯洗剤、台所洗剤など)を配布しました。

「食品ロス」の解決に向けた、企業等で大量に余った賞味期限が近い、納品期限切れ、破損がある等のいわゆる「ロス品」配布は、フードバンクかながわ、NPO 法人セカンドリーグ神奈川、社会福祉法人横浜市社会福祉協議会、株式会社オーバーシーズなどからの提供により冷凍食品を含め計17回実施しました。学生にとってはありがたい一方で、食品ロス問題の深刻さを感じることもとなりました。

- 通常開催(金沢八景キャンパス)実施日・場所
- 第1回/8月1日(火)@市大交流プラザ「いちよの館」168名に配布
- 第2回/11月8日(水)@YCUスクエア「Y201」220名に配布
- 第3回/2024年1月31日(水)@市大交流プラザ「いちよの館」、予約セット+ロス品120名、ロス品64名、計184名に配布
- 特別開催(福浦キャンパス、舞岡キャンパス、鶴見キャンパス)
- 福浦キャンパス/7月10日(月)、70名
- 舞岡キャンパス/7月10日(月)~14日(金)4名
- 鶴見キャンパス/7月26日(水)、19名
- ロス品配布/16回



★「循環型「食」の協働プロジェクト」(食のサイクル活動)詳細はこちらから。



2024年1月31日令和5年度第3回「食の支援」前日準備。

学生による「循環型「食」の協働プロジェクト」関連活動、「ボラツアー」&「ちょこボラ」

「循環型「食」の協働プロジェクト」(食のサイクル活動)に関連する活動として、ボランティア支援室学生スタッフ「Volunch」食の支援グループによる「フードバンクかながわ・食糧提供支援ボラツアー(※)」や、「食の支援」の準備、大量のロス品配布の際の「ちょこボラ」など、学生による活動も活発に行われました。

「フードバンクかながわ・食糧提供支援ボラツアー」では、フードドライブなどを通じてフードバンクかながわに集まった様々な種類の食品の賞味期限が問題ないか確

YCU×SEED ブリスター回収 プロジェクト



株式会社シードと協働したプロジェクトとして発足した学生団体「Clover シーラバー (=sea+lover)」。2年目となった2023年度は、ブリスター回収BOXの福浦キャンパスへの設置や、FMヨコハマと連携した街ゴミ調査への協力、浜大祭での啓発活動となるクイズの実施とマイクロプラスチックを使ったワークショップ、ワークショップの材料集めを兼ねたビーチクリーンへの参加など、活動の場所をキャンパス外にも広げて積極的に取り組みました。

活動2年目！ 学内で少しずつ広まってきた ブリスター回収活動

2022年度末金沢八景キャンパスへブリスターを届けに来てくれた福浦キャンパスの学生から、「医学部ではコンタクトレンズを使っている学生、教員が多いので福浦キャンパスにも回収ボックスを置いてほしい」という意見がありました。金沢八景キャンパスではYCUスクエア1階、市大交流プラザ「いちちょうの館」、シーガルセンター食堂前、第一講堂の4カ所に設置しています

が、この意見を受けて、福浦キャンパスの食堂入口、看護棟2階カフェテリア跡、医学研究棟2階講義室前の3カ所にも設置することとしました。回収活動は、コンタクトレンズを使用する学生や教職員の間で、徐々に認知が拡大しています。

2023年度の金沢八景キャンパスのブリスター回収は7回計35.145kg(2024年2月5日時点)になりました。株式会社シードに集められたブリスターはリサイクルされて、物流パレットとなって半永久的に物流の現場で使用されます。

■YCU×SEEDブリスター回収プロジェクト「学生団体 Clover」参加メンバー/20名



金沢八景キャンパスYCUスクエアに設置された回収ボックス。

FMヨコハマの番組と 連携したゴミ拾い ボランティアに参加

5月にはFMヨコハマで放送中の、神奈川県内の海岸の現状や海洋汚染をテーマにした番組「守ろう！私たちの綺麗な海(生放送番組「Kiss & Ride」内)」で行われた企画、「街のゴミ捨て状況の調査とゴミ拾い」のボランティアに Clover メンバー4名が参加してきました。ルート上を歩きながら専用のスマートフォンアプリで動画を撮影するという活動です。得られたデータは株式会社ピリカが開発したゴミ分布調査システム「タカノメ」を用いて解析し、ゴミの種類や数量を読み取って見える化するというものです。この活動の様子は、「Kiss & Ride」(2023年8月7日～14日)の番組内でも紹介していただきました。



スマホで落ちていたゴミの動画を撮影してデータを集める。

■街のゴミ捨て状況の調査とゴミ拾い(株式会社ピリカ、株式会社オオスミ、FMヨコハマ共催)
●5月2日(火)4名参加、新横浜駅周辺、野毛・伊勢佐木町周辺



★「街のゴミ捨て状況の調査とゴミ拾い」
詳細はこちら

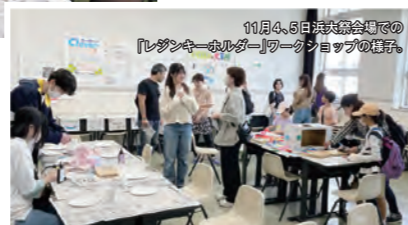


10月4、5日開催の浜大祭準備の様子。

浜大祭に出展！ ワークショップと啓発のための クイズで子どもも大喜び

2023年度も2022年度に引き続き、11月4日(土)、5日(日)に開催された浜大祭に出展しました。展示班と体験班に分かれ、展示班は活動紹介の展示やクイズなどを通して地域の方々と交流しました。体験班は、事前にメンバーでビーチクリーンに参加するなどし、そこで集めたマイクロプラスチックを消毒して、それらと集まったブリスターを材料に、来場者に「レジンキーホルダー」を作ってもらうワークショップを行いました。ブリスターのくぼみに海で拾った貝やカラフルなマイクロプラスチックを入れてUVレジンで固めるというものです。お子さん連れや中高生の来場者も多く、皆さんに楽しんでもらえました。(2年 西村 桃香)

■浜大祭企画
●9月14日(木) マイクロプラスチック集め、野島海岸、5名参加
●9月30日(土)「オールクリーン野島ビーチ(ビーチクリーン)」、野島海岸、2名参加
●11月4日(土)(浜大祭1日目)展示班3名参加、体験班7名参加
●11月5日(日)(浜大祭2日目)展示班2名参加、体験班5名参加
■場所/本校舎202教室



11月4、5日浜大祭会場での「レジンキーホルダー」ワークショップの様子。



★Cloverの「X」は
こちらから。

YCU病院 ボランティア プロジェクト



「YCU病院ボランティアグループ」は2020年末、病院を併設する本学ならではの活動として、「新型コロナウイルス感染症が広がる中、病院のために何かをしたい」という学生が集まり、活動を開始しました。



2022年度に取り組んだ折り紙プロジェクトで作ったモザイクアート

横浜市立大学附属病院での 「院内案内活動」

2023年5月の新型コロナウイルス感染症の5類移行を前に病院の課題として挙げたのが、増えつつある外来患者さんに向けたサポートでした。具体的には、横浜市立大学附属病院の受付付近に立った腕章をつけた学生ボランティアが、来院する患者さんやそのご家族に受付や会計の方法、診療科・検査室などの場所を案内するといった、ファーストコンタクトの対応で

す。受付が最も混雑する午前中の1～2時間、授業がなく参加可能な学生が適宜活動しました。

しかしこの活動は、対応できる学生が福浦キャンパスに通う学生や、平日午前中に授業のない学生に限られること、また患者さんからの質問に戸惑うことなく答えられるようになるためには何度かの経験が必要なおも、現在は担い手不足で病院側のニーズに応えきれずにいます。

また2022年度に取り組んだ「折り紙プロジェクト(※)」が患者さんに好評だったので再度実施してもいいのでは？という

意見もありましたが、夏を境にまた感染者が増えてきたこともあって院内で折り紙の配布や作品の回収をすることが難しくなり、現在は活動が保留となっています。

(※)折り紙プロジェクト/手作りの折り方説明書と折り紙を袋に入れキットにして、横浜市立大学附属市民総合医療センターの各病棟デイルームに設置。入院患者さんに折り紙を折ってもらい、作品は回収箱に入れてもらって学生が回収。その後作品一つひとつを写真に撮ってそのデータでモザイクアートを作り院内に展示した。

■YCU病院ボランティアプロジェクト参加メンバー/21名
■院内案内実施日/延べ16日、延べ18名参加(2023年3月より開始)
■場所/横浜市立大学附属病院

ボランティア支援室主催プログラム Program Sponsored by Volunteer Support Office

3 Step ボランティア 実践講座



2023年度の「3Step ボランティア実践講座」は、Step1「基礎講座」をオンラインで、Step2「ボランティア体験」は現場での実践、Step3「振り返り」は対面で実施しました。主体となっている社会福祉法人横浜市金沢区社会福祉協議会、関東学院大学、横浜市立大学の3者からは、特にStep3の対面で行うグループワークのメリットについて多くの意見が出されました。2大学が合同で行うプログラムの開催方法については多くの課題があるものの、継続的な開催に向けて検討していきます。

4年ぶりの対面開催となった 「Step3」では大きな成果が

2016年度から「福祉系ボランティアへの参加のハードルを下げる」ことを目標に、社会福祉法人横浜市金沢区社会福祉協議会とともに実施している「ボランティア実践講座」(2020年度は中止)。2021年度からは関東学院大学もパートナーとなり、参加する学生も増えています。

2023年度はStep3「振り返り」を本学で対面開催し、大きな成果を挙げることができました。Step3は、Step2での体験やさまざまな方との交流で感じたことを言語化して、皆で共有することが課題です。区内地域ケアプラザのコーディネーターさんにもグループワークに入っていたので、学生一

人ひとりに対しその場ですぐ的確なフィードバックを与えることができ、また希望する福祉系ボランティア活動や、卒業後のキャリアも見据えたアドバイスなどを詳細に伝えることも可能です。このように、オンラインでは難しかった、きめ細やかなやり取りが大きなメリットです。

Step2では、区内10カ所の地域ケアプラザから「障害者支援」「高齢者支援」「子ども支援」の3つのカテゴリーで合計51プログラムを紹介していただき、夏休み中ということもあって多くの学生が参加しました。

能見台地域ケアプラザで実施している「にこにこ広場」は0歳～未就園児と保護者・プレママを対象とした活動です。参加者親子が輪になって座った後、司会の先輩ママのリードで手遊びをしたり歌を歌ったりと、楽しい時間を過ごします。中にはママ同士でおしゃべりになることがあり、その間ボランティアの学生は子どもをあやしながら、一緒に遊ぶことができます。最初はどのように接したら良いかわからなくても、他のベテランボランティアの方やコーディネーターさんに促されながら、次第に子どもとの距離



能見台地域ケアプラザで実施されたStep2「にこにこ広場」体験に参加中の学生

離を縮めていきます。最後は子どもたちになつかれて、離れがなくなることも。このように、Step2では普段なかなか接することができない方とお話をしながら、その方たちの困りごとを実感したり楽しい時間を共有して、お互いの理解を深めることができます。

■実施日
●Step1/7月4日(火)、市大14名参加、関東学院大学13名参加
●Step2/7月24日(月)～9月15日(金)、市大延べ40名参加、関東学院大学延べ24名参加
●Step3/9月19日(火)、市大7名参加、関東学院大学6名参加
■場所
●Step1/オンライン(Zoom)
●Step2/横浜市金沢区内各地域ケアプラザ
●Step3/横浜市立大学金沢八景キャンパス YCUスクエア1階ピオニーホール



対面で実施されたStep3のグループワークの様子。

新型コロナウイルス感染症の影響で中止されていたイベントや国際会議等も以前のような通常開催の形態に戻り、学生にとってさまざまな活動の場が戻ってきました。

2023 ワールドトライアスロン・パラトライアスロンシリーズ 横浜大会



延べ33万人が来場した大型大会で、多くの外国人選手をサポート！

2015年、ボランティア支援室設立の年から本学学生がボランティアとして参加するようになり、8回目の活動となった今大会(中止となった2020年は除く)では、大会前5月11日(木)のパラバイクの練習サポート、オリンピックを目指す世界トップクラスの選手が集まる13日(土)の「エリート」、約1700名の一般参加者を中心とした14日(日)の「エイ



アスリートラウンジで、語学対応を行ったメンバー

ジ」で、延べ34名の学生が活動しました。

13日(土)早朝のパラ選手の対応では、車いすの選手には目線を下げて話しかける、視覚障害のある選手には具体的に説明するなど、コミュニケーションにもよりきめ細やかな対応が必要とされました。

世界各国から来日した選手が競技前最初に集まるアスリートラウンジでは、緊張している選手もいる中、学生も最初は少し緊張気味でしたが、サポートを必要としている選手がいらないか目を配り、機敏に積極的に動いていました。

一方フィニッシュエリアには、レースを終え悔しさから涙する選手や、レース中にケガをした選手などもおり、声をかけるタイミングや体を気遣うなど、センシティブな対応が求められました。また、達成感で喜びにあふれる選手とは一緒に喜び合い、ねぎらいの言葉をかける場面や、選手から感謝の言葉をかけられる場面も多くあったようです。

翌14日(日)はエイジ選手の受付(スマホによるチェックイン)をメインに、受付テント

内に分散して立ち活動しました。受付は朝6時から年齢ごと(第1から第10ウェーブ)に時間を分けて行われ10時にいったん終了。午後の活動は、当初予定されていたメダルセレモニーのサポートから、急遽大会アンケートのチラシ配布と来場者カウントに変更になりました。

このようにボランティアの活動では、予定が急に変更になることもありますが、すぐに頭を切り替えて、必要とされる活動に柔軟に対応することも大切だということも学びました。

■実施日/5月11日(木):パラバイクサポート4名参加、5月13日(土):エリート・アスリートラウンジ5名、フィニッシュエイド10名参加、5月14日(日):エイジ・選手受付&チラシ配布15名参加
■場所/横浜市中区・山下公園周辺



★「2023 ワールドトライアスロン・パラトライアスロンシリーズ横浜大会レポート」はこちらから。

第49回金沢まつり 花火大会募金活動 ボランティア



4年ぶりの開催で、来年度の花火打ち上げ資金となる募金活動に従事

2020年~2022年の3年間開催が見送られていた、金沢区の夏の空を彩る「金沢まつり花火大会」は、海の公園で4年ぶりに開催され、本学からは11名のボランティアが募金活動に参加しました。

とにかく大勢の人がごった返す中、花火打ち上げ前の1時間と、打ち上げ後の1時間、5エリア10グループに分かれて募金活動を行いました。募金箱を持って海の公園内の通りを歩きながらすれ違う人たちに声掛



活動前に皆で集合写真！



「ありがとうございます！」と声をかけながら活動。

けをする学生、人通りの多い駅の改札の近くに立って呼びかける学生など、前半は見ず知らずの人に大声で呼びかけることに少し躊躇もある様子でした。しかし慣れてくるにつれ、それぞれかけることばに工夫を凝らし、花火終了後の募金では、興奮冷めやらない観客の皆さんに少しでも協力してもらえよう、蒸し暑い中活動しました。花火打ち上げの間はボランティアも自由に観覧でき、久しぶりのスターマインをは

じめとする豪快な花火を楽しみました。

今年は約3,500発の花火が打ち上げられましたが、今年集まった募金は、来年の花火打ち上げのために使われます。

■実施日/8月26日(土) 募金活動は18:00~19:00、20:00~21:00、11名参加
■場所/海の公園
■主催/横浜市金沢区地域振興課

横浜マラソン 2023



ボランティアの学生も楽しみながら活動しました

高速上り口直前の第9給水所で、約2万2千人のランナーに「給食」を配布

4年ぶりに声援が許可された2023年大会での本学の一般ボランティアの活動は、折り返し直後、高速上り口直前の第9給水所で給食を配布しました。28名の学生ボランティアが2班に分かれて、声を限りの応援と、「一口おにぎり」の給食配布で、参加ランナーの皆さん約2万2千人をサポートしました。

当日開始前の準備は、トレーに11個×5列びしり並んだ「一口おにぎり」を、ランナーが取りやすいように1個ずつ菌抜き



ポリウムゾーンの時間帯は夫出し

にし、抜いたものは別のトレーに並べる、というもの。大量のおにぎりの並べ替え作業のほかチョコレート、カリフォルニアレーズン、やわらか梅なども取りやすいように箱に入れ替える作業や、ゴミ箱を設置する作業などがありました。9時半過ぎのトップランナーの通過後、もっとも通過者が多くなるポリウムゾーンの9:50~11:30は息をつく間もないほどの混雑具合で、ボランティアメンバーも休憩をとる間もなく声援と配布の対応に集中しました。

また救護ボランティアには、医学部生9名が「FR 隊 (First Responder=初期対応者)」として参加しました。沿道で要援助者や傷病者がいないか確認しながら、緊急の場合は無線連絡や胸骨圧迫などの対応をする命を守る第一線での活動です。

参加した学生は「ランナーの方が足つりによって痛がっているとき、自分にできたのはそばによってひたすら声をかけるこ

とでした。足つりだったので致死的な病態にはならなかったものの、CPA(心肺機能停止)などの場面に遭遇したとき自分は動揺せず行動できることは断言できない気がします。この心持を忘れず、卒業時には自信を持って駆け付けられる人間になろうと強く思いました」との感想を述べています。

約2万2千人という大勢の方と間近で接するという機会はそうそうないもの。ランナーの方たちの目標に向かって挑戦する気持ちと、それを応援する観客やボランティアの皆さんの温かい気持ちにあふれた沿道での活動は、参加した皆にとってかけがえのない達成感をもたらしてくれたようです。

■実施日/10月29日(日)
■場所/給水:第9給水所 高速杉田上り口付近、28名参加 救護:第8救護所 南部市場ブロック9名参加、給水パフォーマンス:第11給水所 首都高湾岸線杉田入口付近、応援団チアリーディング部&ピアノ会計2名参加



★「横浜マラソン2023レポート」はこちらから。

「第12回アジア・スマートシティ会議」 ボランティア



企業ブースでインタビュー中。

ビジネススタイル&笑顔でおもてなし。キャリアを考えるきっかけにもなる体験

第12回アジア・スマートシティ会議は、アジア諸都市、政府機関、国際機関、学術機関及び民間企業等の代表者が一堂に集まる国際会議です。この会場で、本学の学生20名が活動しました。

「会場案内・運営」活動は、ゲストの受付サポートや同時通訳レシーバーの貸出と管理、会場内での声掛けや案内を担当しました。この活動の目標は「来場者へのおもてなし」と「円滑なセッション運営」です。初めてこの会議に参加する来場者にとってファーストコンタクトとなる受付は、会議の顔でもあり、初めてボランティアに参加する学生にとっては緊張の場でしたが、皆そつなく対応しました。

「インタビュー」活動は2~3名でチームを作り、一般参加者やゲスト、出展企業・団体の方に参加の動機や会議の感想、横浜の印象などを中心としたインタビューを行いました。さまざまな国の方がいるので呼びかけはもちろん英語。断られて躊躇してしまう場面もありましたが、1組、2組と実施するうちに積極的に話しかけられるようになりました。また出展ブースの企業・団体の方へのインタビューでは、ビジネスの視点で企業理念や今後の事業についてなども聞く必要がありました。

今回の第12回アジア・スマートシティ会議は平日開催にもかかわらず多くの学生がボランティアとして参加し、終了後には、横浜市国際局から参加者全員に「感謝状」が贈られました。新型コロナウイルス感染症拡大中の2020年~2022年、国際会議はほぼオンラインで実施されていたため、久しぶりに華やかな国際会議の現場に触れるいい機会になりました。

■実施日/11月14日(火)、15日(水)、会場案内&運営13名参加、来場者インタビュー7名参加
■場所/横浜・みなとみらいパシフィコ横浜 ノース
■主催/横浜市国際局



★「第12回アジア・スマートシティ会議」ボランティア活動レポートはこちらから。



来場者からのお声にもインタビュー。

ボランティア支援室では地域貢献活動に取り組むさまざまな学生団体を支援しています。

■キャンパスタウン金沢サポート事業補助金

横浜市立大学と関東学院大学、金沢区が連携した「大学の活力を生かしたまちづくり「キャンパスタウン金沢サポート事業補助金」の本学事務局を、ボランティア支援室が担っています。2023年度は以下の4団体が採択されました。

<医学部YDC(Yokohama Dream Catchers)>
市内の小・中学生などに向けた
医療訪問授業の実施

2010年から市内の小・中学校で医療教育の訪問授業を行うほか、2023年度は高齢者を対象に地域のコミュニティ施設で医療体験教室を開催するなど、医学部の学生約60名の部員が幅広い活動を行っています。これらの取組により2023年度の「第17回かながわ子ども・子育て支援奨励賞 神奈川県福祉子どもみらい局」と「YCU Student Award(*)」を受賞しました。



★医学部YDCのinstagramはこちらから。

看護生命科学ゼミ



★看護生命科学ゼミの活動はこちらから。

角田隆一ゼミナル写真部



★角田隆一ゼミナルの活動はこちらから。

■YCU ボランティア・スタートアップ補助金

2020年度より、学生団体によるボランティア活動や社会・地域貢献活動のきっかけづくりとして、活動開始2年目までのプロジェクトに「YCU ボランティア・スタートアップ補助金」を支給しています。2023年度は下記の4団体・プロジェクトに交付しました。

Clover
(YCU×SEED プリスター
回収プロジェクト)

※詳細は本誌P6に掲載。

ほのほの

横浜市南部児童相談所と連携し、一時保護されている子どもたちの学習権(進路保障)を確保するために学習支援活動を行っ

ています。また地域住民の方々に、一時保護所を含む見相の活動について知識と理解を深めていただけるよう、啓発活動も行っていきます。

はまみらい(旧称:みんなの畑)

地域の子どもや高齢者の方と一緒に、学内の休眠中の畑を使って植物を育てることで、自然に触れ環境を大切にす

「YCU ボランティア・スタートアップ補助金」の支給期間を過ぎた団体についても、引き続きサポートをしています。

<one by ONE>
院内・オンライン家庭教師活動と小児病棟向けイベント企画

学生団体 one by ONEは、入院中の子どもたちへの学ぶ機会の提供と、楽しい体験ができるイベントの企画を行っています。現在は、医学部生23名と、金沢八景キャンパスの学生17名の40名で活動中です。2023年

度は神奈川県福祉子どもみらい局による「第17回かながわ子ども・子育て支援大賞」を受賞しました。

★one by ONEのHPはこちらから。



<Hair for Children>
頭髪を失った子どもたちに
ウィッグを!

Hair for Children(旧:医学部ヘッドネーション同好会)は、医学部生のほか国際教養学部、国際商学部の学生も含め15名で活動中です。

全国から頭髪の寄付を募り、(株)アートネイチャーと協力して小児がん等の病気が事故で頭髪を失った子ども達に「幸運のウィッグ」を届ける活動を行っています。今年度は、ウィッグ提供のほか地域の子ども達にヘッドネーションを啓発するワークショップも開催し、これらの活動により「YCU Student Award(*)」を受賞しました。

★Hair for ChildrenのHPはこちらから。

※YCU Student Award/さまざまな分野で活躍し、本学の名譽を高め、あるいは学内の士氣を高めた学生個人または団体を表彰する制度。



を育む活動です。また共同作業を通してお互いのことを知り、安心できる地域づくりに貢献することを目的としています。

まちフォトスタジオ

地域住民の方や学内から金沢区に関する写真を収集し、「地元の方目線での金沢区の魅力・みどころ」を発信することを目的に、浜大祭と、その後区内のケアプラザ等の施設で展示を行いました。

イベントでクリスマスツリーを作成し、子どもたちにプレゼントしました。



ボランティア支援室
学生スタッフ
「Volunch」とは

「ボランティアの楽しさを発信し“ボランティア支援室と市大生”“市大生と地域”をつなげる」「自らもボランティアに参加することで、経験値をあげる」のふたつを目標に活動している学生団体です。

2023年度は「食の支援グループ(P5参照)」「資源リサイクルグループ」「子ども食堂グループ」「国際交流グループ」に分かれ、それぞれの活動を行いました。また夏には西大道町内会主催の「寺子屋塾 西大道」に参加し、3日間にわたり地域の小学生との交流を楽しみました。

寺子屋塾 西大道

新型コロナウイルス感染症の拡大により2020年から中止されていた「寺子屋塾 西大道」は、西大道町内会が継続的に開催している地域の小学生と市大生が交流しながら夏休みの3日間を過ごすプログラムです。4年ぶりの開催となった2023年は「Volunch」が協力しました。

午前中は学年ごとに分かれての学習の時間で、小学生はそれぞれが持ってきた宿題やドリルなどに取り組みました。ひとつのグループに1~2名の大学生がついて、質問があれば大学生に聞くこともでき、ドリルの回答に丸を付けてもらうなど、おしゃべりを交えながら楽しい学習の時間を過ごしました。

地域のお母さん方による手作りのお昼ご飯を挟んで、午後はワークショップや制作の時間です。最終日の5日(土)の夕方には会場前の公園で「納涼祭」が行われるという



高学年クラスはおしゃべりしながらゆめを語り合った学習時間。



納涼会用の法被を着てソーラン節の練習。

ことで、皆で絵を描いた法被を着てソーラン節の練習をするなど、普段はなかなか体験できない、夏休みならではのプログラムでした。

大学生の中にも子どもたちと関わることや、学習支援の対応をすることが初めての者もあり、最初は戸惑っている様子でしたが、徐々に打ち解けて膝の上に座ってくる子、隣にべったりくっついてくる子たちとの交流を楽しみました。

- 実施日/8月3日(木)Volunch 5名参加、4日(金)Volunch 7名参加、5日(土)Volunch 7名参加(延べ19名参加)
- 場所/横浜市金沢区西大道町内会館
- 横浜市立大道小学校児童延べ50名参加、西大道町内会スタッフ延べ28名参加



★「第8回寺子屋塾 西大道レポート」はこちらから。

子ども食堂グループ
「チルドレンズカフェ」
ボラツアー

Volunch「子ども食堂グループ」では、2022年度から「チルドレンズカフェ」で継続的に活動を続けてきましたが、ボランティア不足を目の当たりにしていました。そこで学生が主催者や参加者と実際に関わりながら現状を知り、子ども食堂という場が、子どもたちの栄養不足や孤食という問題の解決に繋がることを理解してもらうために、ボラツアー(P5参照)を企画しました。

Zoomによる事前交流会では、子ども食堂が解決しようとしている「子どもの貧困」「孤食」「地域交流の不足」「地域の子どもの見守り体制の低下」などについて学びました。

今回ボラツアーを3日間実施して、参加した学生に実際にそれぞれの目で見ながら子ども食堂のことを理解してもらうこと

ができ、今後も「チルドレンズカフェ」の活動にボランティアとして継続的に参加したいと思ってもらえたことが大きな成果です。(Volunch 2年 高橋舞美、山下詩乃、城戸風花、大石あかり)

- 実施日/2023年3月22日(水)、3月29日(水)、4月5日(水)、16:00~19:00
- ※各日Volunch 1名+一般学生1名、延べ6名参加
- 場所/神奈川県鎌倉市「チルドレンズカフェ」

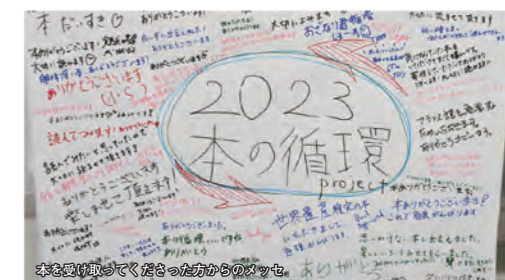


★「ボラツアー2022 Vol.3 子ども食堂チルドレンズカフェボラツアー」レポートはこちらから。

資源リサイクルグループ

浜大祭で取組んだ
「本の循環プロジェクト」

「大学生は意外と読まなくなった本をため込んでいるのではないか」「横浜市がどんな本を読んでいるのか地域の方々は興味を持ってくださるのではないか」と考え、浜大祭で「本の循環プロジェクト」を企画しました。横浜市に読まなくなった本を寄付してもらい、集まった約50冊の本を浜大祭の出展ブースにて希望する来場者の方にお渡ししました。



当日はさまざまな年代の多くの方が立ち寄ってくださり賑やかな雰囲気でした。余った本は古紙回収し、お気持ち代としていただいたお金は善意銀行に寄付しました。

本を受け取ってくださった約30名の方には、本を寄付してくれた横浜市へのメッセージとして、紙にコメントを記入していただきました。「良い本に出会えました。ありがとうございます」「横浜市生の思想が見られておもしろい。大切に読みます」など、たくさんのコメントをいただきました。本を循環すると同時に、浜大祭来場者の方に横浜市のことを知っていただく機会となり、やりがいを感じました。

(Volunch 2年 山下純輝)

- 実施日/11月4日(土)
- 場所/横浜市立大学本校舎204教室
- Volunch 資源リサイクルグループ/神戸、室谷、山下、大東、坂東、石丸